

山梨県の地球温暖化対策 地域協議会の実態調査

■目次

1. 研究目的
2. 調査方法
3. 分析結果
4. 結論

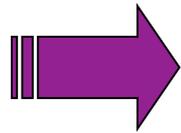
山梨大学生命環境学部
地域社会システム学科
早川 大規

1. 研究目的

- 産業の発展に伴い、人類は石油や石炭などを大量消費するようになり、大気中の二酸化炭素量は200年前と比べて35%ほど増加した。これからも人類が同じように活動を続ければ21世紀末には、地球の平均気温は最小で1.1°C、最大で6.4°C上がると予測されている。



- 温室効果ガスの排出動向は地域特性や人口規模によって大きく異なり、地域レベルで地球温暖化対策を進める必要がある。
- 地球温暖化対策を地域ごとに推進するための「場」として期待されている組織がある。



地球温暖化対策地域協議会

- 地域協議会の組織体制や活動の現状に関して調査研究はほとんど実施されていない。
- 現在、山梨県では2050年の「CO₂ゼロやまなし」を目標に環境活動に積極的に取り組んでいる。

本研究の目的は、山梨県における地球温暖化対策地域協議会の実態を調査し、テキストマイニングを用いて、活動の課題や可能性を明らかにする

- 現在、山梨県には、1つの活動推進センターと7つの地球温暖化対策地域協議会があり、日々活動を行っている。



- NPO法人フィールド21(旧センター)
- 公益財団法人キープ協会(新センター)
- エコ富士川
- グリーン中央
- グリーン北杜
- 甲府市地球温暖化対策地域協議会
- 都留市地球温暖化対策地域協議会
- 万葉エコ市民の会
- エコ環境練楽甲斐

2. 調査方法

山梨県内5つの地域協議会を対象に調査

- ①調査対象の地域協議会にインタビュー調査依頼書と調査シートを送付し、記入後の調査シートを返信してもらう。
- ②地域協議会に指定された日時、場所に改めて伺い、地域協議会の方に直接インタビューを行う。

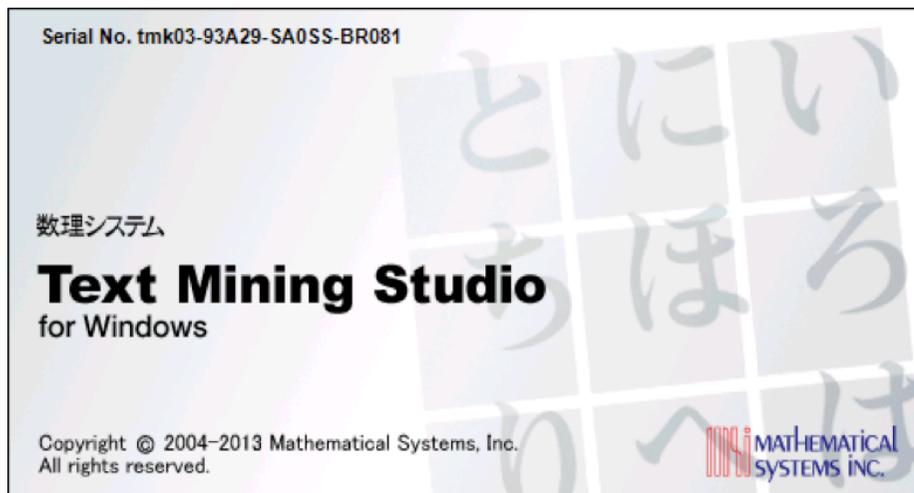
調査シートの内容

- 1) 地域協議会を設立したきっかけ
- 2) 主な活動内容と成果
- 3) 活動に関する問題点
- 4) 今後の活動に向けたアイデア
- 5) 地球温暖化防止活動が継続するための条件

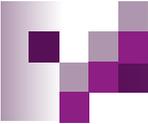
調査シートの内容にインタビュー内容を加えて分析

分析対象

- 1) 地域協議会を設立したきっかけ
- 2) 主な活動内容と成果
- 3) 活動に関する問題点
- 4) 今後の活動に向けたアイデア
- 5) 地球温暖化防止活動が継続するための条件



分析には株式会社NTTデータ数理システムのText Mining Studioを用いた。



手順①

- ・ インタビュー依頼書と調査シートを送付
- ・ 調査シートの内容を踏まえてインタビュー

手順②

- ・ 調査シートの内容+インタビュー調査の内容を「ことばネットワーク」を使用して分析

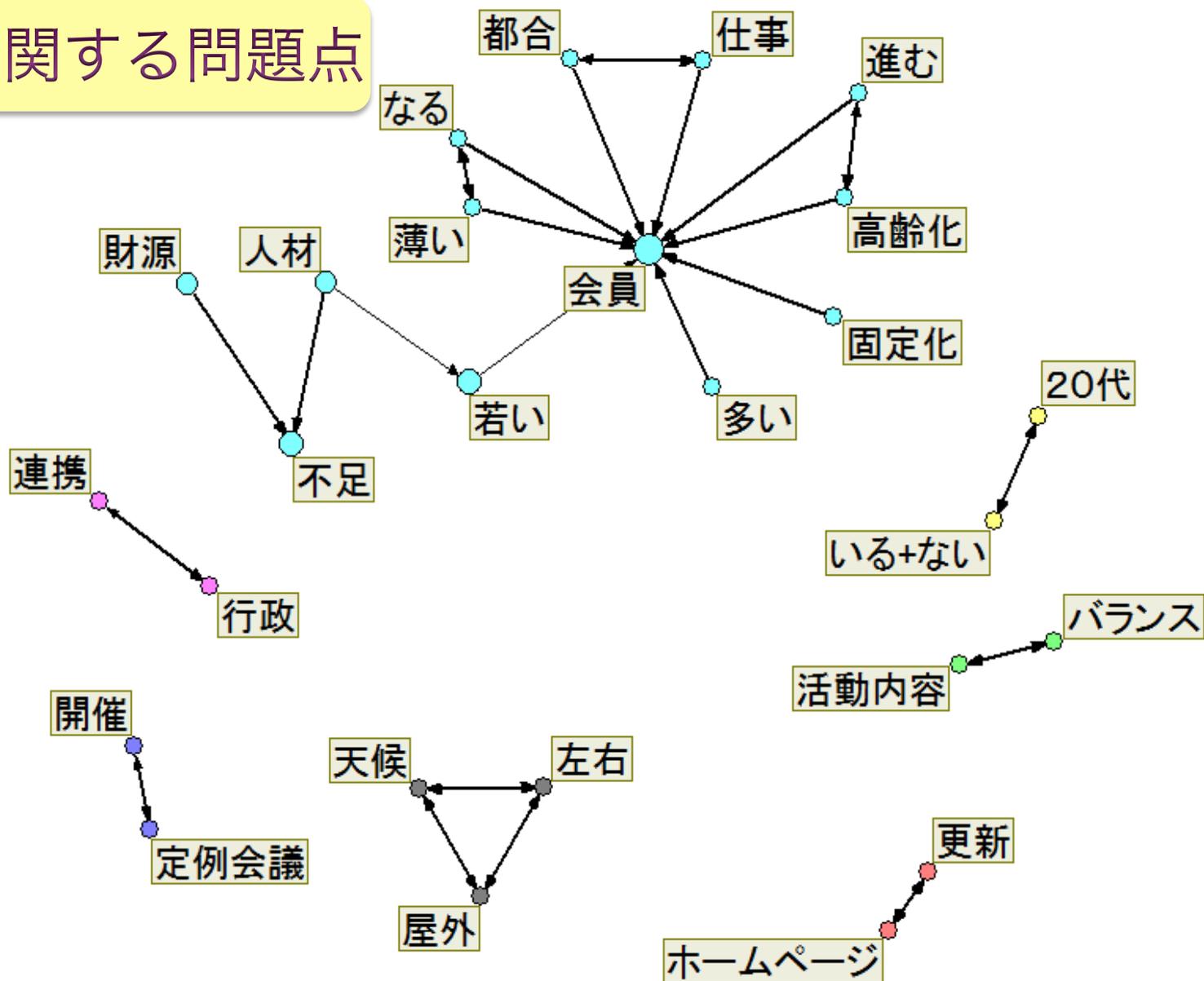
手順③

- ・ これまで調査されてこなかった地球温暖化対策地域協議会の課題と可能性をみつける

ことばネットワークは、関連の強いことばをネットワーク図で表すことができる。

3. 分析結果

活動に関する問題点



➤ 3つの問題に分類することができる

会員

- ・ 高齢化、固定化
- ・ 仕事の都合

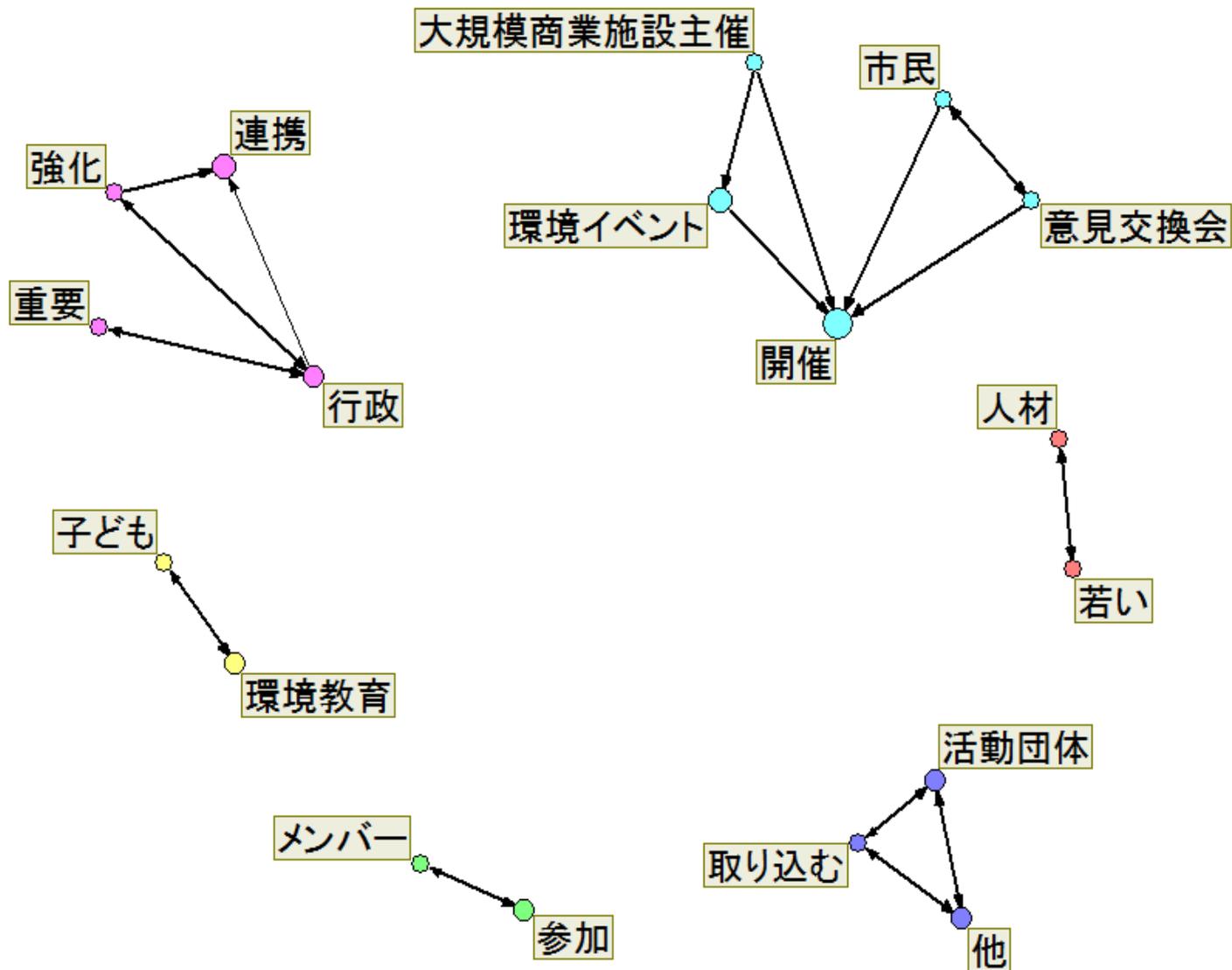
内容

- ・ 行政との連携
- ・ ホームページの更新
- ・ 定例会議の開催

資金

- ・ 財源の不足

今後の活動に向けたアイデア



➤ 3つのアイデアに分類することができる

会員

- ・多くのメンバーの参加
- ・若い人材の確保

内容

- ・商業施設主催の環境イベント
- ・市民との意見交換会の開催
- ・子どもへの環境教育

規模

- ・行政との連携
- ・他の環境活動団体との連携

➤ 3つの継続条件に分類することができる

会員

- ・ 団結や意思疎通
- ・ 若い世代の参加
- ・ 資金などの負担をかけない

内容

- ・ 行政との連携強化
- ・ 活動を継続すること
- ・ 温暖化に目を向ける社会の構築

規模

- ・ 家庭の活動を評価する社会づくり
- ・ 家庭における3Rなどの取り組み

4. 結論

分析結果に共通する若い人材をキーワードで考察

- 若い世代の人材不足が会員の固定化、高齢化を引き起こし、ホームページの更新を困難にしている。
- 会員の高齢化により昼間に開催されている定例会議が、仕事を持つ若い世代の参加をより一層難しくさせており、団体の高齢化を進行させる要因となっている。
- 地球温暖化防止活動が継続するために、若い世代の参加はとても重要であり、少しでも環境問題に関心を持ってもらうために、子どもへの環境教育を積極的に行うアイデアが出た。

- 
- 地球温暖化対策地域協議会が抱える課題は、主に高齢化問題、財源不足問題、行政との連携不足である。
 - 行政との連携を確立することができれば、資金の確保が容易となり、活動内容の幅が広がっていく。
 - 地球温暖化対策地域協議会が機能するだけでなく、家庭や個人が環境に対する関心を持って、意識的に行動することが1番大事である。

ことばネットワークの機能を用いて、地域協議会の活動の課題や可能性を的確に見える化することができた。

本研究で得られた分析結果を山梨県や活動推進センターにフィードバックする予定である。



謝辞

本研究を実施するにあたり、山梨県内の地球温暖化対策地域協議会から貴重なデータを提供していただきました。関係者各位に深く感謝します。

参考文献

- [1] 全国地球温暖化防止活動推進センター；
<http://www.jccca.org/> (アクセス日：2015年9月1日)
- [2] 山梨県；山梨県地球温暖化対策実行計画 (2014)
- [3] 平岡 俊一；地球温暖化対策地域協議会の現状と課題, 立命館産業社会論集, 40(4), 107-123 (2005)